

小樽が最も輝いていた時代へタイムスリップ。

商家のある風景「色内～堺町～入船」界わいを歩く

明治、大正、昭和期の、小樽が最も輝いていたところの風景と出会う場所。それが色内大通りから堺町通り、そして入船通りへと抜ける界わいです。明治29年創業時の建物が今も残る「岩永時計店」。小林多喜二の「不在地主」の主人公のモデルが持ち主だったという磯野商店倉庫(現海猫屋)。さらには伊藤博文も宿泊したという北海道初の本格料亭「魁陽亭」などなど。ぜひ、庶民の暮らしを支えていた商家を中心とする、当時の面影を残す歴史ある建物を、ゆっくり時間をかけて、じっくり観察してみてください。見知らぬ街なのに、どこかつかしい。きっとそんな気分になれるはずです。

ゆっくり ● じっくり ● 街を行く



ときを経てなお存在感を増す古き良き時代の遺産。

「北のウォール街」そこは日本近代建築の展示場。

明治後期から昭和初期にかけて、北海道はもちろん、日本の金融・経済を支える都市のひとつとして、世界から注目を集めていた小樽。そのころ色内地区には、中央の大手銀行や地元銀行の本・支店などが競うように建ち並びました。当時はニューヨークのウォール街にたとえられるほどの活況で「北のウォール街」と呼ばれました。この「北のウォール街」には日本の近代建築を語る上で欠かすことができない佐久七次郎、辰野金吾、曾禰達蔵らの作品が数多く建ち並び、その重厚感のあるたたずまいは、小樽に最も活気と熱気があふれていた時代を今に伝えています。



上が大正12年ごろの北のウォール街。街並みは当時も今もほとんど変わっていない。



商家のある風景「色内～堺町～入船」

想像してごらん。石造りの倉庫の前をほら、啄木が歩いている。

運河に面して軒を連ねる石造りの倉庫群。その姿は世界に門戸を開くかつての「商都・小樽」を彷彿とさせます。中でも屋根根に大きな鰹(しほ)を抱き、運河沿い倉庫群のシンボルとなつているのが旧小樽倉庫。この倉庫の一部は営業用倉庫として最も古いもので、明治23年に完成しました。ちなみに石川啄木が小樽で新聞記者をしていたのが明治40年ですから、きつとこの界わいを啄木も歩いていたに違いありません。函館、札幌、小樽、そして釧路と、この時期、北海道を転々としていた啄木。彼は果たしてどんな思いでこの道を歩いていたのでしょうか。そんなことを想像しながら歩く運河沿いの道は、お決まりの観光コースにはない、濃密な旅のひとときになるはずです。



石川啄木と小樽
薄幸の天才歌人

啄木が小樽で暮らしたのは明治40年から41年にかけて。記者として「小樽日報」で、のちの童謡詩人野口雨情とともに三面記事を担当していました。しかし上司と衝突しわずか百日あまりで退社。その後、家族を残して釧路へと旅立ちます。歌集「握の砂」にある子を負ひて雪の吹き入る停車場に われ見送りし妻の眉かなは、小樽駅で家族との別れを歌ったもの。この歌碑は小樽駅横の広場に建てられています。

【南小樽駅】～【小樽駅】建築散歩

世界に名を知られた豪商たちの倉庫から、100年以上たった今も営業を続ける店舗まで。小樽の歴史が濃縮された散策コースをご紹介します。(カッコ内は現在の名称)



1 旧魁陽亭(海陽亭)
明治初期に開業し、北海道随一の料亭として名声を博す。伊藤博文、岩崎小弥太ら政財界の著名人も多数来訪。



2 旧共成(株)(小樽オルゴール堂)
北海道有数の精米・米穀商として知られた共成の社屋で、明治45年に建設。小樽では珍しいレンガ造り。



3 旧木村倉庫(北一硝子三号館)
海産物業などで成功した木村円吉が明治24年に建設。荷物の運搬に使われたトロッキのレールがいまも残る。



4 外人坂
坂の途中にドイツ人貿易商の住宅があったことからその名がついた。急こう配の坂の先には水天宮がある。



5 水天宮本殿・拝殿/啄木歌碑
現在の社殿は大正8年に建設。港を一望できる人気のスポット。境内には啄木の歌碑も建てられている。



6 旧寿原邸
大正1年建設。小樽を代表する実業家寿原家の邸宅。水天宮の北側、急な傾斜地に建てられ、主屋から上手に2つの接客棟を連ねています。



7 旧久保商店(さかい家)
小間物雑貨卸・久保商店の店舗として明治40年に建てられる。商家と石造り倉庫が一体となっている。



8 岩永時計店
明治29年に建てられた小樽で最も古い店舗のひとつ。瓦(かわら)ぶきの屋根には商店には珍しい鰹(しほ)が飾られている。



16 JR小樽駅
昭和9年に建設。窓には多数のランプが並び暖かさを演出。かつて啄木の義兄が駅長を務めていた。



15 旧小樽倉庫(小樽市博物館運河館など)
北海道における営業倉庫の第一号。加賀の北前船主の西出孫左衛門が明治23年から27年にかけて建設。



14 旧高橋倉庫
小豆將軍の異名をとり、ロンドンの相場も動かしたといわれる高橋直治が、大正12年に倉庫として建設。



13 旧北海道拓殖銀行小樽支店(ホテルヴィプラント オタル)
大正末期に建設。「北のウォール街」の交差点を飾っていた。設計は、国会議事堂を手掛けた矢橋賢吉。



12 旧北海道銀行本店(小樽バイン)
明治45年に建設。窓まわりの石組みデザインなどが特徴。外観正面は創建時とほとんど変わらない。



11 日本銀行旧小樽支店(金融資料館)
設計は東京駅の設計者として知られる辰野金吾。夜にライトアップされるとさらに美しい。



10 旧三菱銀行小樽支店(小樽運河ターミナル)
大正11年に建設。1階正面の6本半円柱がギリシャ・ローマ建築様式をうかがわせる。



9 旧取高三郎商店(大正硝子館)
明治39年に建設。2階部分まで達する石造りの防火壁を設け、頻りに発生した火事に備えていた。